

特別支援学級における主体的・対話的で深い学びの研究

～生活単元学習の知識構成型ジグソー法の学習を通して～

主題・副主題の意味

「主体的・対話的で深い学び」

「生活単元学習」

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた

「知識構成型ジグソー法」

生徒が自ら進んで課題解決に取り組み、対話を通して考えを深め、学んだことを実生活に生かす学習



生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事項を実践的・総合的に学習するもの

はじめの考えの記述	課題を確認し、各自で答えを書く。
エキスパート活動	ビジュアル的なエキスパート資料で課題解決のヒントを探しをする。エキスパート資料は、基本的な情報の理解が進むようにICT機器を活用する。
ジグソー活動	エキスパート活動で見つけたヒントを持ち寄り、対話を通して課題についての答えを作り上げる。
クロストーク	教師を交えたクロストークを設定し、自分の考えを再検討する。
おわりの考えの記述	課題について、最後にもう一度自分で答えを出す。

研究の目標

特別支援学級における主体的・対話的で深い学びの研究において、学んだ内容が知識として定着することやコミュニケーション能力を育成するために、生活単元学習の知識構成型ジグソー法の学習の有効性を明らかにする。

本研究で目指す生徒の姿

- 他者と協力しながら、学習課題を解決することができる生徒
- 自分に合った方法で、自分の考えや判断したことを他者へ伝えることができる生徒
- 得た知識・技能を自分の生活に生かすことができる生徒

研究の仮説実証のための手立て

手立て1：中学1年生・3年生に共通する課題の開発

手立て2：生徒が自分自身で課題解決のヒントとなるものを見つけることができる「エキスパート資料」の開発

手立て2：ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境（教具、教材）づくり

実証授業1 手立て1：共通する課題の開発

課題：「製作するものを決めるときに大切なものは何ですか。なぜそう思いますか。」

具体的に 考えの変容がみられた 製作のことを考える

手立て2：「エキスパート資料」の開発

動画資料 実物資料 協力して課題を解決

情報量が多く時間がかった 支援がかなり必要

A:先生が必要なもの B:製作にかかる費用 C:製作にかかる時間・難易度

T:「じゃあ、Aちゃん、先生が必要としているもの。」
B: Aのプリントを指さす。
T:「どれが多かった？何番とかでもいいよ。」
B: Aのプリントを指さす。
T:「指さしながら、「これが1番多いやん。」」
B:「今、Bちゃんが教えてくれたね。言える？Aちゃん。」
T:「言える？」

手立て2：ユニバーサルデザインの視点

見通しが持てるクリア 安心して取り組める

視覚的情報の提示ビジュアル 学習のイメージがもてる

必要なおさ 向かい合ったままずっと机の配置が同じ 余分な刺激が多い

選択肢の提示ビジュアル 自分の意見を表現する手助け

実証授業2 手立て1：共通する課題の開発

課題：「お客さんが気持ちよく買い物ができるお店の店員さんはどんな店員さんだと思いますか。」

相手(お客さん)の立場にたって考えることができた

手立て2：「エキスパート資料」の開発

動画視聴 動画資料+問いの設定

自分の考えをまとめることができた

手立て2：ユニバーサルデザインの視点

板書の構造化クリア 自分の考えを整理できる

選択肢の提示ビジュアル 自分の意見を表現できる

座席の位置の工夫 集中して取り組める

追加資料(動画)の提示 考えを深める

成果

- 知識構成型ジグソー法の学習を行ったことで、お互いの考えを共有し、協力しながら課題を解決しようとする姿がみられた。実証授業後も何かを決めるときには相談したり、協力したりする姿が見られた。このような姿から、コミュニケーション能力を育成することにつながったと判断できる
- 学校だけの学習にとどまらず、学んだことを教室から持ち出す「可搬性」が見られたことから、得た知識をもとに生徒が考え、主体的に行動することができたと判断できる。

課題

- より身近で、主体的になる課題とするために、生徒との日常のやりとりや事前のアンケートを通して、生徒の実態を的確に把握する必要がある。
- 作業や対話に時間がかかるため、1時間の授業で知識構成型ジグソー法を行うのではなく、2時間に分けて行う等、時間設定の工夫が必要である。
- 場面緘黙がある生徒の見とり方法について、思考をしている様子はあるが、自分の意見が書けない場合にどのように見取るのかを考える必要がある。

研究の実際

成果と課題